

横川っ子だより

授業で子どもの心に火を灯す

新年度がスタートして1ヶ月が経ちました。学級目標や係決め、学習や生活、集団の規律やルールづくりを終え、5月からは、日々の授業に力を入れて取り組んでいきます。今年度は、子どもの学力向上を目指して、以下のテーマで授業実践を行います。

「できる・わかる」喜びを実感し、主体的に学習に取り組む児童の育成
—ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくりを通して—

このテーマに迫るため、私たちは、児童に疑問をもたせたり、解決したいと思わせたりするような授業の導入を工夫し、伝え合う・学び合う活動を重視した授業づくりに取り組んでいきます。

4月18日には、夏目稔先生が、3年生の社会科「わたしたちのまちのようす」の内容で授業を公開し、全教員で学び合いました。夏目先生は、

子どもが地形図と横川地区の様子を結びつけることがいことに着目し、授業の導入で、地形図を提示した後航空写真、さらに3D表示に切り替えて、子どもの興味関心を引きつけました。その航空写真から、学校はまち真ん中にあり、学校を中心にまちの様子を観察すればまちの様子がわかるだろうと考えて、学習課題を「学校



を中心に、まちの様子はどうなっているだろうか？」としました。その後、4枚の写真を提示して、それぞれの写真が学校からどの方向に向けて撮影されたものなのかを話し合いました。子どもは、「ゆうゆうの里が見えるから北側かな」「横川公園があるから東側かな」など、根拠をつけて活発に話し合う姿が見られました。

一番感心したことは、授業が終わっても、子どもたちが黒板の前に集まり、「森があるから西側の写真だよ」などと、子どもたちの討論がずっと続いていたことです。授業の導入で、子どもに「感動・驚き・疑問」といった刺激を提供すること

で、子どもは、「もっと知りたい」「はて、なぜだろう」と心が揺さぶられ、学びに向かう気持ちが生まれたことで、学び続ける姿が持続したのだと思いました。

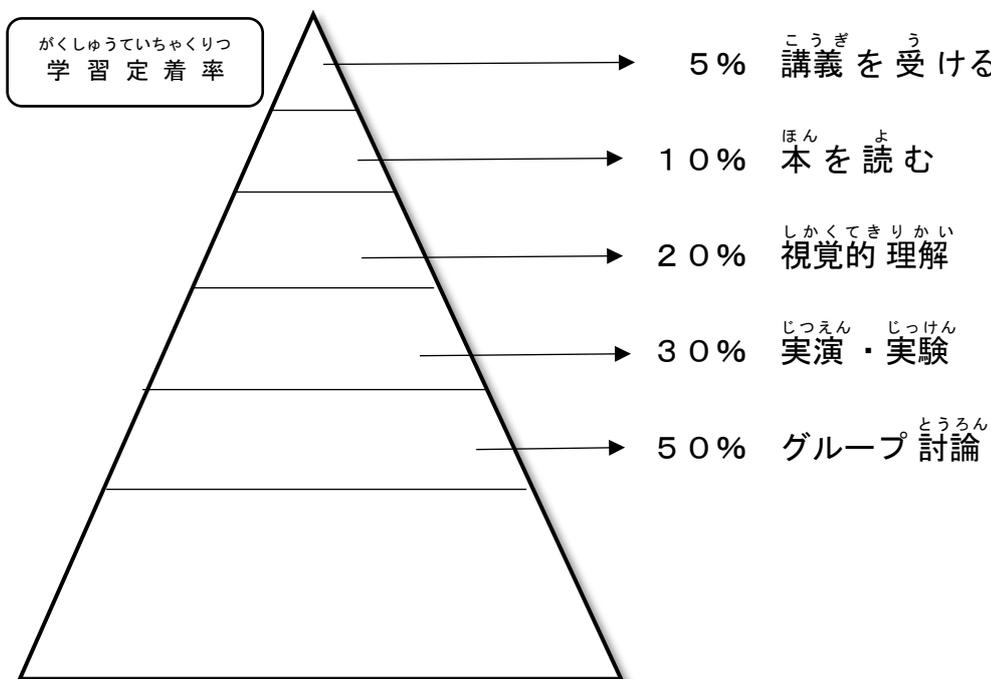
4月19日には、小島美幸先生が、本校の教員を子ども役にして道徳科「親切、思いやり」の内容で授業を公開し、全教員で学び合いました。小島先生は、授業のはじめにペンを落とし、自分ならどう行動するかを考えさせた後、「本当の親切とは？」という学習課題を提示しました。

この授業で考え、議論したことは、「困っている人がいたら、迷わず親切にすることができるか？」でした。困っている人がいたら助けたいと思うけれど、自分が親切な行いでどう思われるかを考えたり、周りの目を意識したりして、親切にはできないという意見がありました。



すると、ある人から、そのとき行動しなかったら後悔するから、私は迷わず親切にするという意見が出ました。その意見を聞いて、親切は、見返りや結果を期待するものではなく、相手のことを思いやってする行為であるから、迷わず困っている人を助けたいという意見が出ました。伝え合いの中で、相手の考えを聞いて、新たな気づきがあったり、今までの考えが変わったりすることで、成長を実感できる教科であると感じました。

授業は、今、「主体的・対話的で深い学び」という新しい教育に向かっています。以前は、授業中は教員の話をしっかり聞いて、落ち着いた雰囲気がいよとされていましたが、これからは、子どもが学習課題を自分事と捉え、主体的に解決しようとしたり、友達と対話しながら解決しようとしたりして、教室では子どもたちの活発に活動する姿や子ども同士で伝え合う姿が見られます。以下、参考にしてください。



→ 75% みずか 自ら たいけん 体験する

→ 90% ひと 人に おし 教える、せつめい 説明する